

TUFS-MGIMO シンポジウム

「アジア共同体と日ロ関係の新展開
——多角的アプローチの現状と展望——」

日時：2014年2月21日（金曜日）10時30分～17時30分

場所：東京外国語大学（本部管理棟中会議室）

開会のあいさつ（東京外国語大学長 立石博高）

問題提起：渡邊啓貴（東京外国語大学教授・国際関係研究所長）

<第1セッション>

「日ロ関係の現状と展望」 10時45分～13時00分

ドミートリ・ストレリツォフ（モスクワ国際関係大学アジア・アフリカ学科長）

「日露関係発展のポテンシャル」

セルゲイ・チュグロフ（モスクワ国際関係大学教授）

「平和条約のない関係から平和条約がある関係へ」

河東哲夫（元ウズベキスタン大使）

「日ロ関係：1992年以來の成果とこれからの課題」

名越健郎（拓殖大学教授）

「日露関係における中国ファクター」

<第2セッション>

「アジア共同体の中の日本とロシア」 14時00分～16時30分

アンドレイ・バイコフ（モスクワ国際関係大学准教授）

「東アジア統合過程の新しい地政学：主導権をめぐるせめぎ合いとロシアの位置」

アンナ・キレーエワ（モスクワ国際関係大学講師）

「東アジアでのパワーシフトとロ日関係」

鈴木義一（東京外国語大学教授）

「日ロ関係をめぐる日ロ両国の世論」

杉本侃（環日本海経済研究所（ERINA）副所長）

「日本とロシアの経済交流の現状と見通し」

<総括セッション> 16時30分～17時30分

講演者・報告者によるディスカッション

<情報交換会> 18時00分～20時00分

主催：東京外国語大学国際関係研究所

協力：東京外国語大学社会・国際貢献情報センター

後援：一般財団法人ワンアジア財団